つくばアグリつうしん かわら版

2025年 9月 22日

TEL :029-836-1109
FAX :029-836-1816
E-mail:tsunofu@pref.ibaraki.lg.jp
発行元:県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター

HPはこちらをアクセス＞＞＞

有機農業支援研修会開催！（土づくり･カンショ圃場見学）

令和７年８月６日、つくば市で有機栽培を実践するつくばいしだファームにおいて、石田代表を講師に「令和７年度つくば地域有機農業支援研修会」を開催しました。

新規導入品目として、令和７年度から有機JAS認証となるカンショの圃場見学では、課題となる除草作業やコガネムシ類対策について石田氏の取組みを紹介いただきました。

「有機栽培に取組む際の土づくり」と題した講演では、受講者から病害虫対策や土づくりに関する質問が多く挙がり、科学的なデータと経験に基づいた講師の回答を熱心に聞く様子から、有機農業への関心の高さが伺われました。

県農業技術課及びつくば市からは、有機農業の最新施策並びに補助事業等の情報提供、普及センターからはカンショでのコガネムシ類の防除対策について説明しました。今後も普及センターは、有機農業の取組みを支援していきます。

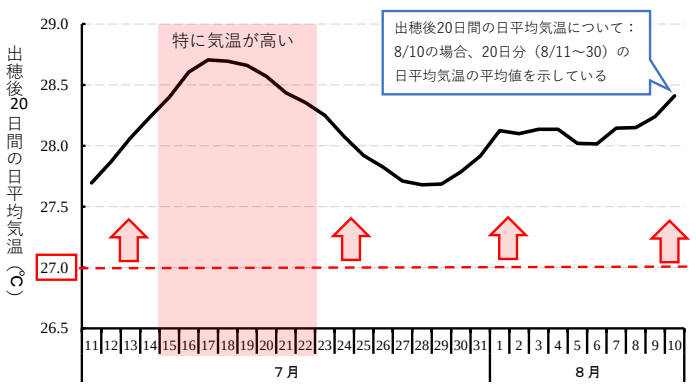
白未熟粒の発生メカニズムと対策について

近年、水稲栽培で問題となっている白未熟粒は、玄米内部のデンプンの蓄積が不十分で、細胞内に隙間を生じることにより、光が乱反射して白く見える現象です。発生すると品質が低下し、等級及び食味への影響が懸念されます。白未熟粒は、出穂後20日間の日平均気温が27℃以上となると発生しやすいことが知られています。

令和７年のつくば市（館野）のアメダスデータを解析した結果、8月上旬までに出穂期を迎えた場合、いずれの日も出穂後20日間の日平均気温が27℃を超えており、ほとんどの移植時期で白未熟粒の発生リスクがあることが明らかになりました（図）。特に、7/15～22に出穂期を迎えた場合（４月下旬～５月頭に移植したコシヒカリが該当）、出穂後20日間の日平均気温が著しく高く、白未熟粒の発生リスクは更に高まりました。

白未熟粒の対策としては、中干しによる茎数の制御、間断かんがいによる根の活力維持など基本技術の励行が肝心ですが、最も効果的な方法は高温耐性品種（「にじのきらめき」・「ふくまるSL」）の導入です。

次年度に向けた栽培技術及び品種の栽培方法について、ご興味のある方は、つくば普及センターまでお問い合わせください。



▶（図）出穂期に応じた日平均気温（20日間平均）の変化

新規就農者向け！県南地域農業学園開催中！

県南農林事務所の3普及センター（土浦、稲敷、つくば）では、新規就農者を対象に、基礎的な栽培技術や経営改善等に関する講座「県南地域農業学園」を開催しています。

今後開催の講座については、随時参加者を募集しておりますので、ご興味のある方は、当普及センターまでお問い合わせください。

▸「雑草対策講座」の様子

令和７年度開催内容		
第１回	病害虫防除講座	（６月24日）
第２回	雑草対策講座	（７月30日）
第３回	高温対策講座	（９月24日）
第４回	販売戦略講座	（10月３日）
第５回	先進経営農家研修	（10月）
第６回	土づくり講座①	（11月）
第７回	農業経営講座	（12月）
第８回	県南地域プロジェクト合同発表会	（１月）
第９回	土づくり講座②	（２月）

就農希望者等を対象に就農支援ワークショップ開催！

令和７年７月25日、つくば地域就農支援協議会で、当地域の就農希望者や新規就農者を対象に、先輩農業者との交流を通して就農を成功に導く学習の場として「第１回就農支援ワークショップ」を開催しました。

今回は、就農支援アドバイザーである関口農業経営士及び川上青年農業士から、自身の経験を踏まえ、就農にあたっての心構えや経営のポイント等について講演をいただきました。その後、就農段階別に分かれてグループワークを行い、各々の参加者に対し就農支援アドバイザーから農業経営等に関する助言をいただきました。参加者からは「先輩農家に具体的に質問が出来て、就農へのイメージが湧いた」「地域とのつながりが出来て良かった」などの感想が聞かれました。

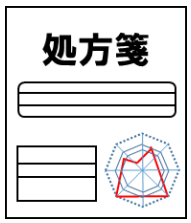
次回は令和８年１～２月頃に開催を予定しています。

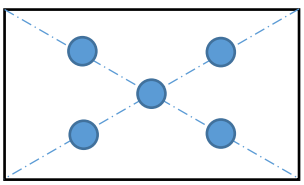
▸第1回ワークショップの様子

良い作物は良い土づくりから！土壌診断受付中！

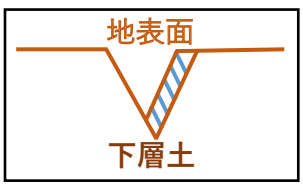
毎月１回、土壌診断を実施しています。

作物を作るための事前準備として、土づくりの見直しや土壌養分の状態を確認したい方はご利用ください。





▸図１　ほ場の青点部分から採土



▸図２　青斜線部分から採土

持込期限：毎月18日前後（毎月25日頃測定）
（詳細な期限は普及センターにお問合わせください。）

持込点数：１人５点まで

採土方法：ほ場の対角線上から５か所採土し、混和してください（図１）。また採土の際には、表土を軽く取り除いた後、作土層（深さ15～20cm）にV字型溝を設け、側面にそって採土してください（図２）。湯のみ茶碗約1杯分（約500g）の土を乾燥、ふるいをかけた状態でお持ち込みください。

測定項目：pH（土壌酸度），EC，硝酸態窒素，可給態リン酸（P），交換性塩基類（Ca，Mg，K）

農作業中の安全に注意しましょう➤

農作業安全の啓発資料：農林水産省